

令和2年度
第62回 全国社会教育研究大会
新潟大会



事例発表

「学校と地域の連携・協働
～高校・公民館・地域住民のつながる活動～」

新潟市社会教育委員
(特定非営利活動法人みらいずworks)

角野 仁美



「自分から 自分らしく
みんなとともに
社会をつくる人を育てる」を
ミッションに活動。
(学校教育・社会教育支援事業)

- ・設立9年目
- ・新潟市西区に事務所
- ・スタッフ6名(非常勤含む)

※2019年度より、県内8高校(市立・私立)の
地域での「総合的な探究の時間」授業の企画・コーディネートに携わる。

学校教育 × 社会教育

人材育成 × 地域づくり



新潟市

- * 面積726.46平方km
- * 人口約79万人(2020.4月時点)
- * 8区からなる政令指定都市



新潟市 教育ビジョン (H18~)

「学・社・民の融合による人づくり、地域づくり、学校づくり」

★公民館では「コミュニティ・コーディネーター養成講座」を開催 (H23~)

→**地域課題解決に向けた 実践者育成**

※H24~市内8区の公民館で実施

※現在までに延 1,831人が受講



南区「白根地区公民館」が H29より取り組む、講座内容について事例紹介

白根地区公民館主催：「南区コミュニティ・コーディネーター育成講座」

* 公民館主催で、**高校生を対象**とした連続講座を
放課後、高校を会場に実施。地域課題の発見・解決を促す、
コミュニティ・コーディネーター(CC)を育てることが目的。

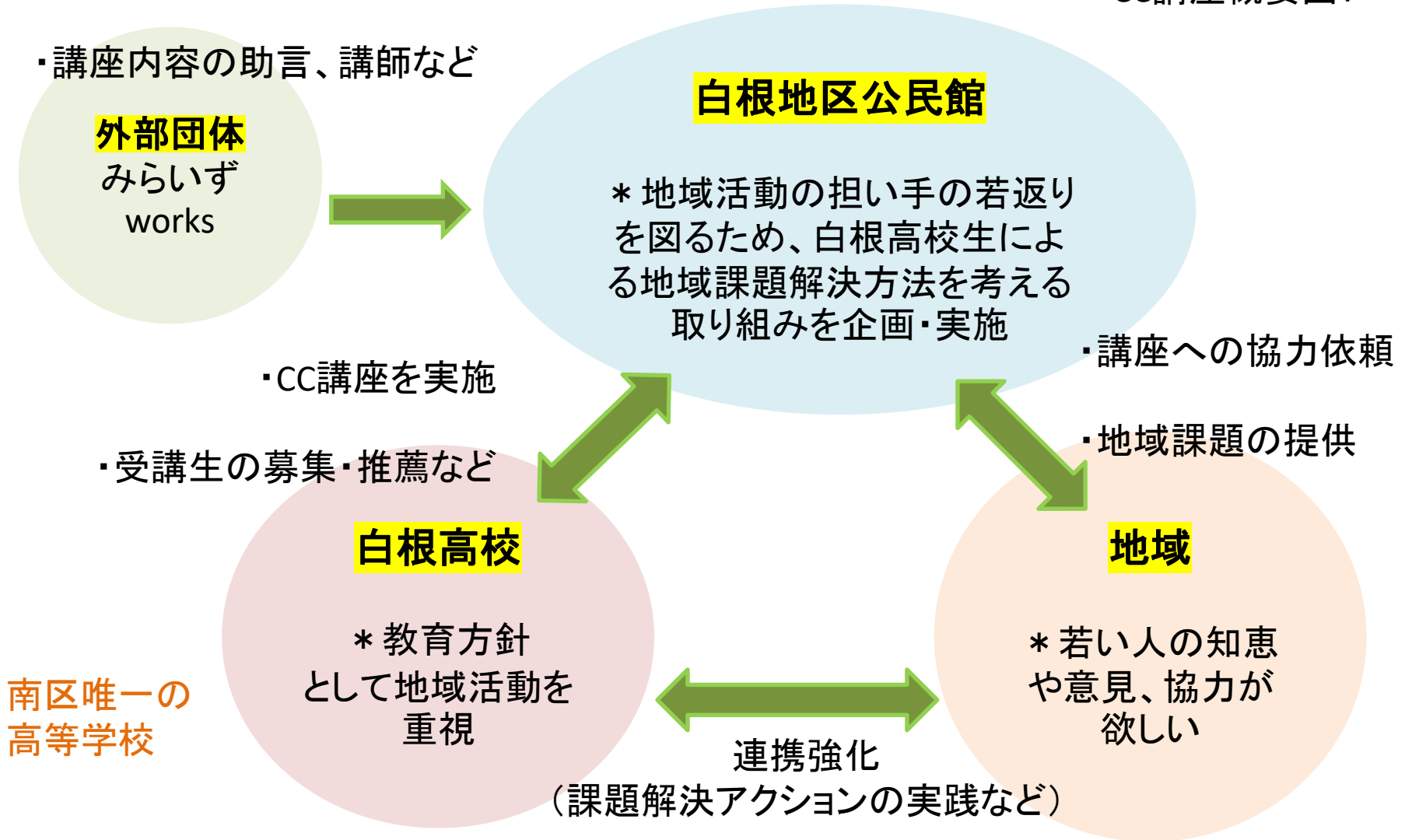
* 毎年、白根高校の有志生徒：約10名が参加している。

* **地域：コミュニティ協議会とコラボ**

コミュニティ協議会から**ミッション提示**
→その地域課題を解決する
アイデアを考え、提案する



CC講座概要図:



2018年度のミッション： 大通地区のシルバー世代の住民の コミュニケーションを深めるためのアイデアを考え、実行する

※全12回のワークショップ(活動)を行った



★地域でヒアリング、現状把握



★チームづくり

★事前リサーチ、問いづくり



★ブレストによる
アイデア出し

★提案のまとめ

★プレゼン準備

【ミッション】 大通地区のシルバー世代の住民が自ら困りごとを発信しやすくなるよう、地域住民同士のコミュニケーションを深めたい。そのアイデアを考える。

大通地区の現状(課題・活用できそうなもの) コミュニケーションの方法・機会(しかけ) シルバー世代(ターゲット)

小学校の体育館
ドラゴンボールのバス

興味を深める

スポーツ好き
男性

企画アイデア
小学校の体育館をつかて、スポーツ仲間をひろく、人があつまってきたら、自由につがえる日もつくて交流を深める

その結果大通地区のシルバー世代はどうなる?
少し人との距離が近づく

名前:

【ミッション】 大通地区のシルバー世代の住民が自ら困りごとを発信しやすくなるよう、地域住民同士のコミュニケーションを深めたい。そのアイデアを考える。

大通地区の現状(課題・活用できそうなもの) コミュニケーションの方法・機会(しかけ) シルバー世代(ターゲット)

ネット知識不足

ネット教室

知識のある人と学んでコミュニケーションをはかる

企画アイデア
ネット教室を開いて、若い知識のある人がネットについて教える(コミュニケーションの増加)

その結果大通地区のシルバー世代はどうなる?
ネットについて知れて、近代化している時代に追いつくことができる。

名前:

★地域の方へ、ミッションに対する提案発表

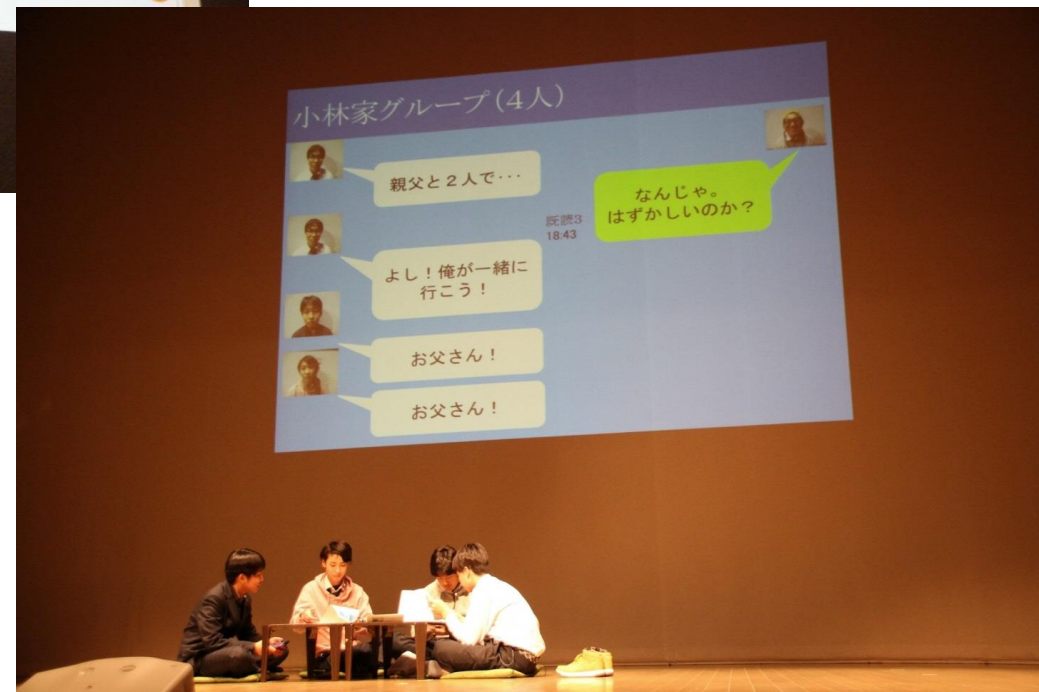


★寸劇を交えながら、 企画をプレゼン

コミュニティ協議会(地域)の
方々に大好評でした

自分たちができることとして
「**高校生による**
高齢者向けスマホ講座」を提案

災害時の連絡手段になるなど、
スマホ使用の有効性について
プレゼンしました。



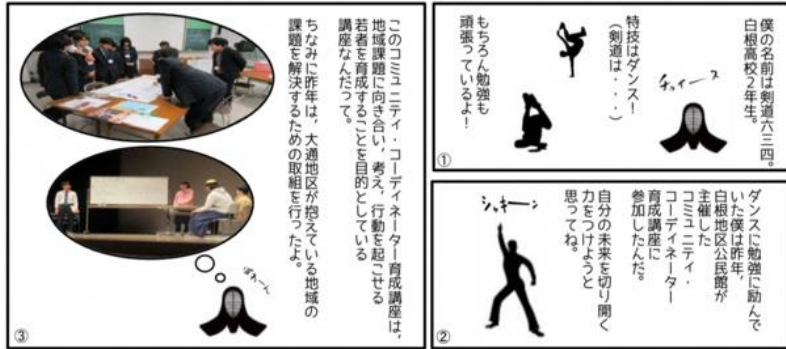
実際に地域で「スマホ講座」を2回開催

・地域から僕たち高校生が必要とされていることが分かった

・自分で考えたことが本当に実現できるとは思わなかった。やろうと思えば何でもできるんだなと感じた。

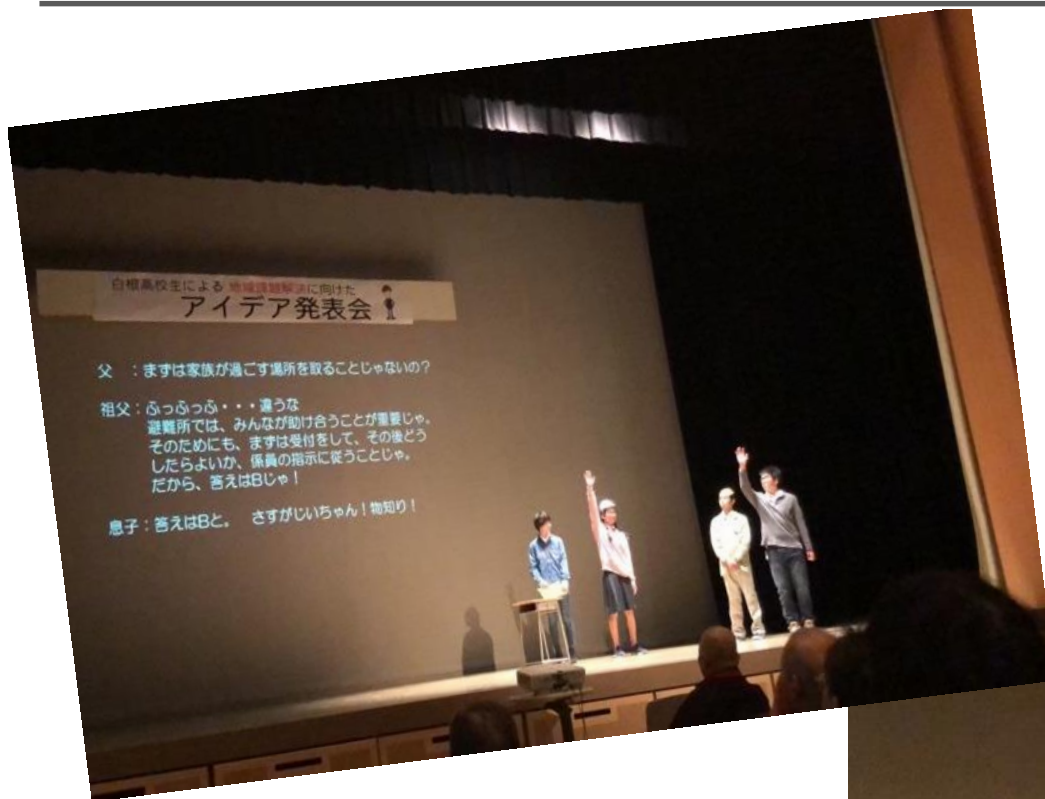


★大通地域生活センターにて
お年寄りにLINEの使い方をレクチャー
（携帯販売店：Docomoとコラボ）

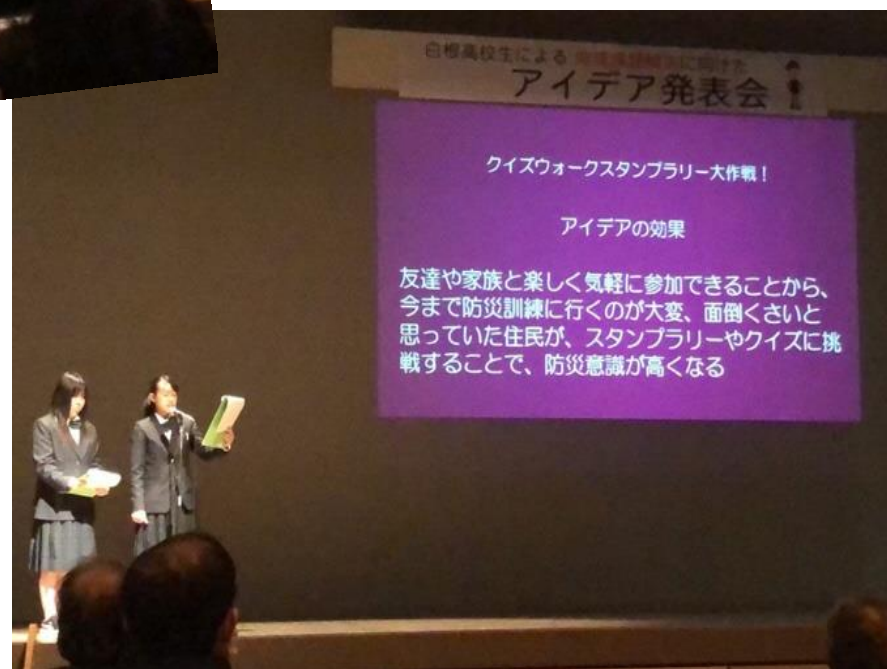


庄瀬地区コミュニティ協議会より「庄瀬地区の住民が、防災に対する意識を高めるためにはどうしたらよいか。そのためのアイデアを考える」というミッションを受け、全10回の講座を通してアイデアを考え、提案した。





※発表されたアイデアは、
 次年度にコミュニティ協議会を
 中心に実現していく方向性で
 あったが、新型コロナウイルスの影響
 で実施が延期されている。



成果

★高校生が地域コミュニティと密に関わり行動する経験を通して、地域から感謝される・地域に影響を及ぼしているという「成功体験」を積み、**地域への関心や自己肯定感**が高まっている

★受講生はリピーターが多く、上級生が下級生をフォローしながら活動を進める姿も見られた

★活動の担い手不足を感じている、また地域課題に向けたアクションのヒントを求めている地域側も、高校生との活動が、**地域づくりの新たな一歩に**

課題

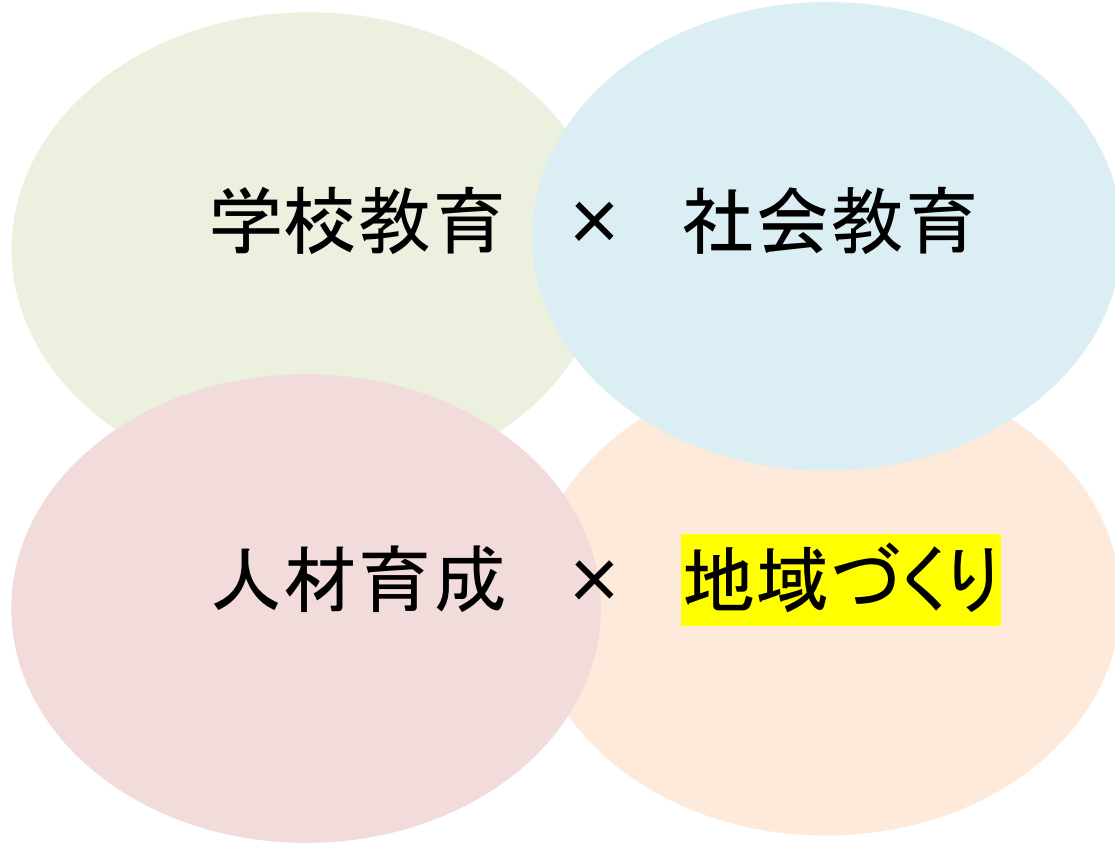
高校生が提案した「活動の継続性・発展性」

高校生は年度ごとに活動メンバーが入れ替わる

→高校生主体の活動やそのアイデア・やる気・想いを

誰がどのようにサポートし続けるのか？

地域と学校の協働体制をしっかりと整えていくことが必要



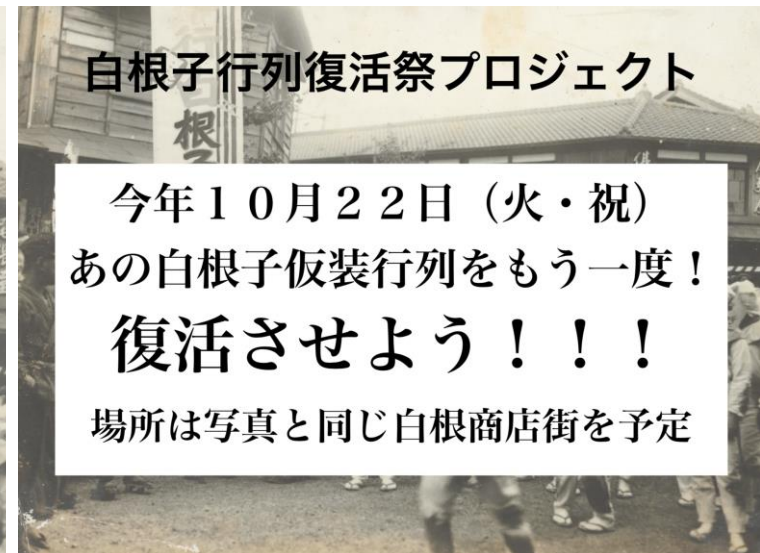
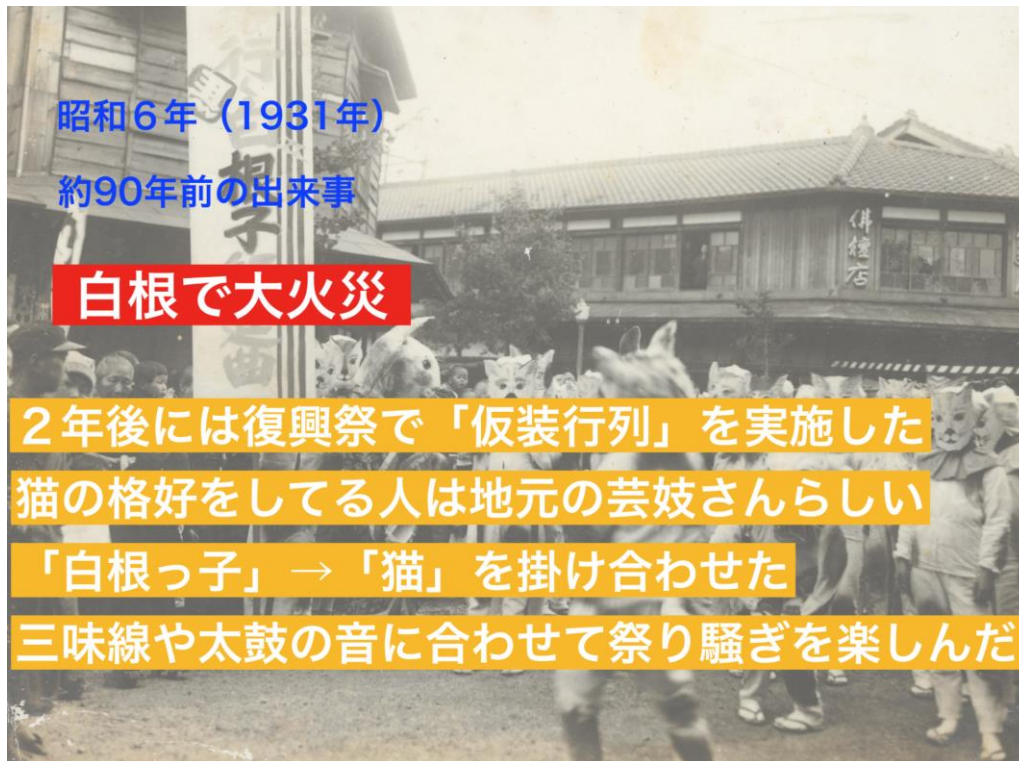
※どこまで地域課題解決に結びついたのか？

※生徒の変化・地域の変化を見取る視点は？
(そこを丁寧におっていく必要がある)

★新潟県立白根高等学校 1学年 67名(2クラス)

【総合的な探究の時間(年35時間)】2019年～先行実施

地域の祭り(白根子行列復活祭プロジェクト)の企画運営を行った



白根子行列復活祭プロジェクト

<みんなに授業で取り組んでほしいこと>

一緒にこの復活祭プロジェクトの作り手になってほしい

白根高校 × 白根商店街

新商品開発
チーム

まちなみ
雰囲気
チーム

仮装で
ツアー
チーム

★生徒は3チーム、
16グループに分かれて
プロジェクトに参画

<連携図>

白根高校

- * 校長・教頭
- * 1学年教員

白根高校
地域教育コーディネーター

みらいずworks
(カリキュラム検討企画)


南区産業振興課

地域起こし協力隊

白根商店街商工会

- * 祭りの企画運営
- * 授業への参画

2019年「白根子行列復活プロジェクト」の流れ

- 
- * 7月8日 「白根子行列プロジェクト」
オリエンテーション授業
 - * 7月26日 各チームごとに情報収集など
 - * 7月30日 白根商店街のまち歩き・インタビュー
 - 31日
 - * 8月30日 各チームに分かれてアイデアの検討
 - * 9～10月 アイデアを改善・実行
★チームごとにヒアリングや連絡調整
 - * 10月22日 「白根子行列祭り」当日
 - * 10月26日 文化祭にて、成果の発表
 - * 11月1日 学びの振り返り授業
 - * 1月17日 学びの成果発表会

【白根子行進曲】当日 2019年10月22日(火・祝)



* 8店舗で新商品コラボ

* まちあるき

* シャッターのペンキ塗り

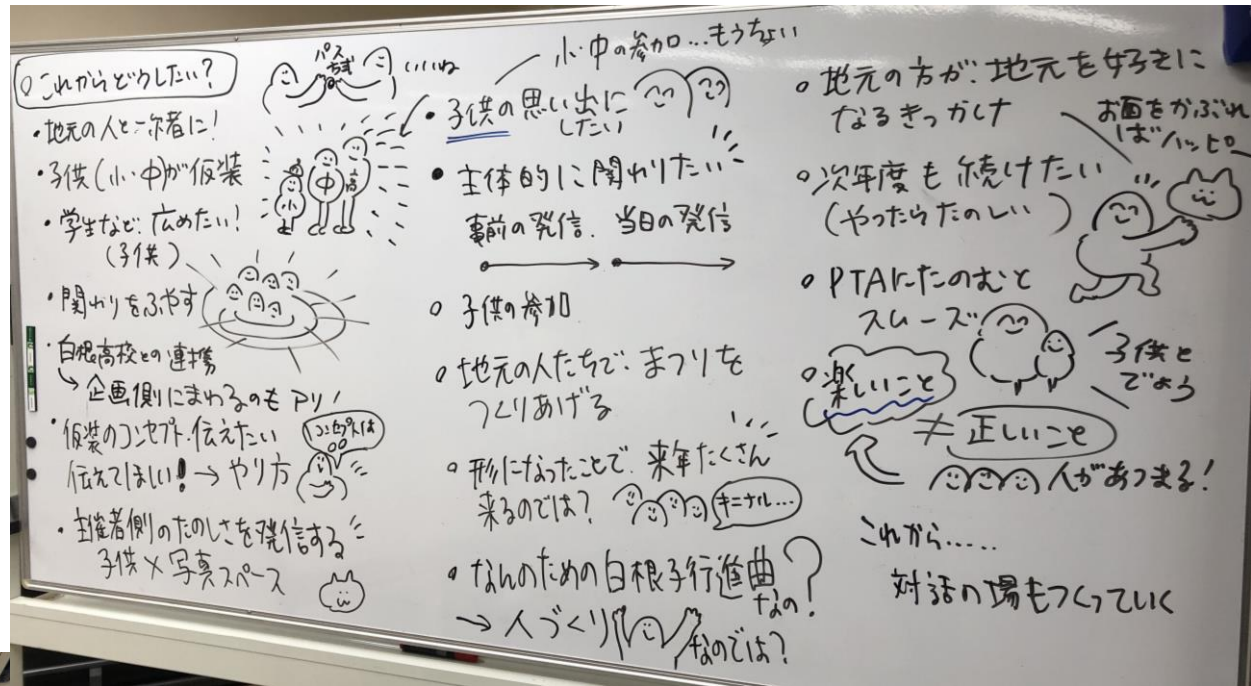


実行委員の振り返り会に 高校生が自主的に参加

「来年は企画に
1から関わりたい」



高校生もまちの担い手に



<実行委員の声>

「高校生が関わってくれたことが良かった」

「祭り前日、商店街に高校生がたくさん歩いている姿を見て、泣きそうになった」

「南区の人が、南区を好きになるためにこのイベントをやっていくべきなのでは」

「続けることが目的の祭りにしたくない」





1年生

地域を紐解く調査・発信活動

* 新潟今昔写真とコラボ



2年生

農家さんと協働で
南区観光インバウンドツアーづくり





食用ギク「かきのもと」

収穫体験で おもてなし

高校生が外国人留学生と共同作業

県立白根高校の生徒たちが自ら考えた農業体験コンテンツを外国の人に案内する「南区おもてなし方向上プロジェクト」が先ごろ、行われた。同プロジェクトは、同高校の探究授業の一環で、新潟市南区の農家の協力を得ながら実施。生徒たちが17グループ、15カ所に分かれて農業体験ツアーを行った。



収穫した「かきのもと」を手に今井さん(左)、ハンさん(右から3人目)、生徒たち

食用ギク「かきのもと」を生産する今井剛さん(左)の元には、同高校2年の男子生徒とベトナムからの留学生ハン・グエンマンさん(右)が参加した。今井さんは「かきのもと」を収穫した生徒たちと共同作業を行った。

新潟市南区・今井剛さんが協力

にいがた



購読申し込みや
情報提供は
お近くのNOSAIへ

NOSAI新潟県
本所 025-282-9292
下越支所 0254-33-3901
佐渡支所 0258-63-4121
魚沼支所 025-792-7077

上越支所 025-525-1130
NOSAI中越 0258-36-8022
NOSAI新潟
(県農業共済組合連合会)
〒951-8133
新潟市中央区川岸町
3-21-3

(新潟経営大学3年)が訪れ、農業を体験。今井さんに習いながら、かきのもとを慎重に収穫し、交流を深めた。

同区白根地区は、かきのもの県内生産量の8割を誇る。今井さんは「今年は例年に比べて量が少ない分、色付きが良く、花が大きいですね」と自信を見せる。

作業場では、収穫されたかきのもの箱詰め作業が行われ、剛さんの父・弘志さんの熟練された箱詰め作業を見学。その後、収穫したかきのもとを撮影した生徒とハンさんは「シャキシャキした歯ごたえでおいしい」「かきのもとにめんつゆ」

など
E本



学校教育（社会に開かれた教育課程）

授業→種まき・きっかけづくり

「もう一步地域に深く関わりたい、自分の力を伸ばしたい、何か自分らしくチャレンジしたい」

社会教育

問い：

学校教育と社会教育が 有機的につながり、
高校生主体の学びを深化させつつ、
地域づくりを進める仕掛けとは・・・？



学びの土壌

社会に開かれた教育課程

挑戦の連鎖を
生む
安心・安全
の土壌

協働を生む
多様性の
土壌

問う・
問われる
対話の土壌

地域や社会に
開かれた
開かれた
土壌

※三菱UFJリサーチ&コンサルティングMURCの調査より

https://www.murc.jp/publicity/news_release/news_release_191122/



小～中～高:社会に開かれた教育課程

「総合的な学習の時間」

「総合的な探究の時間」

地域課題解決型プロジェクト学習

学校教育 × 社会教育

?

社会教育士
教育コーディネーター

人材育成 × 地域づくり

ご清聴、ありがとうございました！

